

## 東京湾超大型原油タンカー座礁事故

平成9（1997）年7月1日に相原力・第34代長官の秘書を拝命した翌日、東京湾で25万トンの原油を搭載したタンカー「ダイヤモンドグレース号」が乗揚げ、原油約1550キリが流出する事故が発生しました。長官の就任あいさつ回り先から慌ただしく本庁に駆け戻り、その後しばらく流出油対策が続いた。

平成9（1997）年7月1日に相原力・第34代長官の秘書を拝命した翌日、東京湾で25万トンの原油を搭載したタンカー「ダイヤモンドグレース号」が乗揚げ、原油約1550キリが流出する事故が発生しました。長官の就任あいさつ回り先から慌ただしく本庁に駆け戻り、その後しばらく流出油対策が続いた。

## 調整は誠意をもって粘り強く

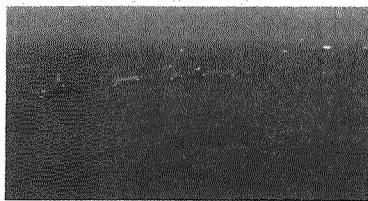
漁業組合との交渉が始まっていた。その後、数カ月にはわたり説明を繰り返しましたが、漁業者の方々の

了解を得ることはできません。そんなある日、交渉の相手方の組合長が「ブイの設

置位置を少しずらせないと、つぶやきました。そして本庁と事前調整をして改めて臨んだ漁業組合総会の日、それまでと同様に反対意見が続出した後で、組合長がおもむろに「ブイの位置を少しずらせないと」と聞いてきたのです。

電話(044) 522-6341  
横浜工場 横浜市西区加瀬2-7-18  
電話(045) 783-0581

### 各機関連携で迅速処理



15日午後、東京湾の海上に浮かぶ原油タンカー「ダイヤモンドグレース号」の残骸。周囲には救助隊のボートが点在している。

### 東京湾中ノ瀬に原油タンカー底触

流出油一五五〇キリ  
ロリッ

七日前、横浜近海で発生した原油タンカー「ダイヤモンドグレース号」の座礁事故。船体は中ノ瀬に底触し、約一五五〇キリの原油が流出した。関係機関は連携して迅速な処理を進めている。

本紙1997年7月10日号は一面で大きく報じた

「海保さんがこれほど言っているのだから、これ以上反対できないのではないかと」と組合長が発言し、それ以上の反対意見が出ずに整流ブイの設置に了解が得られたのでした。組合長とは事前に擦り合わせたわけ

ではなく、阿吽の呼吸でした。海は船舶航行、漁業、レジャー等さまざまな活動の共用の場です。航行安全対策などの新しい制度の導入には関係者の調整が不可欠となります。そのような海の特事情を背景として、海難防止団体による委員会等を通じて合意形成を図る方法は、長年にわたって日本の海事関係者が培ってきた知恵でしょう。時に調整が困難な場合もあります。誠意をもって粘り強く対応すれば道は開けると学んだ事案でした。

（第45代海上保安庁長官）  
川つづく